



TITLE:

經濟心理學ノ組織的研究(四、完)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

---

CITATION:

米田, 庄太郎. 經濟心理學ノ組織的研究(四、完). 經濟論叢 1917, 4(5): 680-706

ISSUE DATE:

1917-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127203>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

## 論說

經濟的行爲と道德的行爲との關係(一).....

法學博士

田島錦治

奢侈税ノ辯難.....

法學博士

神戸正雄

きんぐノ法則と米麥價.....

法學士

河田嗣郎

經濟心理學ノ組織的研究(四、完).....

法學士

米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完).....

法、文學士

小島祐馬

## 時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善.....

法學博士

戸田海市

支那關稅引上と日本ノ紡績業.....

法學博士

神戸正雄

## 雜錄

米國ノ海外放資力.....

法學博士

神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題.....

法學博士

山本美越乃

移民と米國ノ勞働.....

法學士

米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法.....

法學士

河田嗣郎

## 經濟心理學ノ組織的研究 (四、完)

米田庄太郎

### (八)

たゞるど先生ハ前節ニ述ベシ部門分ケニ從ガヒ、先ツ「經濟心理學」第一篇<sup>(1)</sup>ニ於テ經濟的反復ヲ論究シテ居ル。今先生ガ經濟的反復ト云フハツマリ富<sup>ル</sup>ノ復産ニ當ルノデアルガ、然ルニ富ノ復産ハ、其ノ原因ヨリ考察スレバ、慾望ノ復産或ハ反復ト、勞働ノ復産或ハ反復ヨリ成ルモノデアル此クテ經濟的反復ノ研究ハ結局慾望及ヒ勞働ノ研究トナル。併シテ文明生活ニ於テハ富ノ貨幣的符號ガ甚ダ重要ナルモノトナツテ居ルカラ、之ヲ特別ニ研究スルコトガ必要デアル。

此クテ經濟的反復論ノ全體ハ慾望論、勞働論并ニ貨幣及ビ資本論ノ三部ニ別レルコトニナル。

(1)慾望論、まゑむ氏ハサキニ引用セル論文ニ於テたゞるど先生ノ慾望論ヲ非常ニ激賞シテ居ル。恐クハ先生ノ慾望論ハ先生ノ經濟心理學中經濟學ノ研究ニ最モ多ク貢獻スルモノノ一デアラウト信ズル。併シ茲ニハ之ヲ詳シク述ブル暇ハナイデ、遺憾ナガラ只其ノオンノ綱概ダケヲ述ベテ置ク。

夫レ慾望ハ之ヲ根本的ニ分拆スレバ、本來信ト慾トノ結合ヨリ成ルモノデアルコトガ發見サレル。慾望トハツマリ吾人ガ吾人ノ安寧ノ一要素デアルト信ズル物ニ對スル慾デアル。サレバ基本的

(1) La psychologie Économique. Tome I, Livre I, p. p. 143-380.

ナル經濟の一觀念タル慾望ハ二種ノ心理的量ヨリ成立スル本來量のノモノニシテ、經濟生活ハツマリ信ト慾トノ二ツノ心理の力或ハ量ノ働ク特殊ノ社會の領域デアルノデアル。而シテ經濟ニ於テ信及ビ慾ノ演ズル役目ヲ先ヅ別々ニ研究シ、次ニ其結果ヲ總括シテ慾望ヲ研究スルコトニヨリテ、吾人ハ其ノ真相ヲ十分ニ理解シ、隨フテ又經濟ノ根底ヲ深ク理解スルコトガ出來ルノデアル。

今經濟生活ニ於ケル慾ノ役目ヲ研究スルニ當テ先ヅ注意ス可キハ、週期的慾ト任意の慾トノ根本的區別デアル。前者ハ有機的生活ニ根源ヲ有シ、本來週期的ニ反復スルモノニシテ例ヘハ飲食ノ慾ノ如キモノデアル。後者ハ社會的ニ生起シ、一般ニ空想トシテ始マリ、後習慣トシテ固定シ、而シテ不規律的ニ反復スルモノデアル。吾人ハ常ニ週期的慾ノ一定ノ環ニ於テ廻轉シ、又常ニ或空想又ハ或熱情ニ興奮サレテ其ノ環ノ外ニ脱出シツツアルガ、併シ其等ノ空想ヤ熱情モ一般ニ習慣トシテ固定シ、連絡セル慾ノ環ノ中ニ入り込ムノデアル。次ニ慾望ノ強度ノ差異ハ又經濟生活上重要ナル意義ヲ有スルモノデアル。アマリニ弱キ慾望ハ勞働ヲ刺激シナイガ、併シ又アマリニ強キ慾望ハ勞働ヲ擾亂スル。一箇人又ハ一國民ガ規律的ナ勞働生活ヲ營ム爲メニハ、甚ダ強キ小數ノ慾ヨリハ、相當ナ強サヲ有スル慾ノ相當ナ數ガ必要デアル。

慾ノ種類及ビ強度ニ於ケル上述ノ差異ヨリシテ、茲ニ總テノ箇人及ヒ社會ニ於テ、慾ノ二種ノ曲線ガ並存スルコトトナル。一ハ慾ノ閉チタル曲線ニシテ、二ハ慾ノ拋物線或ハ開キタル曲線デアル。併シ兩者ノ割合ハ箇人ニヨリ、國民ニヨリ、時代ニヨリテ變動スル。而シテ開キタル曲線ガ閉チタル曲線ヲ壓倒シテ増大セントスル場合ニ革命ガ起ル。併シ總テノ曲線ハ自カラ閉チント

スル傾向ヲ有スルカラ、慾ノ開キタル曲線モ何時カハ閉タル曲線ニ轉化スル。此クテ新流行ガ早晩新慣習トナルノデアル。又總テノ曲線ハ自カラ閉チントスル傾向ヲ有スルカラ、既ニ閉チタル曲線ヲ開カシムルニハ強キ外來ノ刺激ヲ必要トスル。日本ニ於ケル閉チタル曲線ハ輒近歐洲文明ノ強キ刺激ニヨリテ開イテ來タノデアル。更ニ文明ノ進歩ハ一般ニ何レノ國民ニアリテモ閉チタル曲線ヲ開カシムル結果ヲ生ズルノデアル。

一切ノ慾ハ結局有機的生活ニ根源ヲ有スル。併シ現ニアルガ如キ具體的ナ形態ハ、箇人ト外界トノ接觸及ヒ箇人ト箇人トノ接觸ヨリ產出スル發見及ビ發明ノ摸倣サレタルモノデアル。一切ノ現實ナル慾ハ摸倣サレタル發明デアル。サレバ一切ノ現實ナル經濟生活ハ發明ヨリ成リ、而シテ發明ノ變動ニヨリテ變動スルモノデアル。然ルニ發明ハ勞動、即チ努力ト苦痛トデハナクシテ、發明家ノ安逸或ハ餘暇(*loisirs, leisure*)ノ果實デアル、強キ深キ喜ビデアル。故ニ勞動ヲ價值ノ唯一ノ根源ト見ルハ謬見デアル、價值ノ第一根源ハ發明デアルノデアル。而シテ此理ヲヨク會得スルトキハカノ生産的消費ト不生産的消費トノ區別ハ如何ニ無意味ノモノデアルカハ直チニ理解サレル。人生ノ面白味ハ消費ニアル。一切ノ所謂生産的消費ハ所謂不生産的消費ヨリ起ル。今日ノ必要品ハ昨日ノ奢侈品デアル。文明ノ進歩トハ一方ヨリ見レバ奢侈品ノ發達ト、奢侈品ガ必要品トナルコトニ外ナラヌ。

一定ノ慾ガ之レト衝突スル他ノ慾又ハ信ニヨリテ其摸倣即チ傳播ヲ妨ゲラルレバ、又之レト合致或ハ協力スル他ノ慾又ハ信ニ助ケラレテ其摸倣即チ傳播ガ増大スル。而シテ此ノ慾ト慾又ハ而

トノ衝突及ビ協力ヲ研究スルコトハ又經濟學上根本的ニ重要ナル一問題デアル。飲酒ノ慾ト、共ニ面白ク談話セントスル社交的慾トガ、相互ニ協力シテ、相互ニ他ノ傳播ヲ助ケテ居ル。而シテ禁酒運動ノ危險ト困難ハ此處ニ淵源スル。蓋シ共ニ飲ムコトハ、共ニ食ラフコトヨリモ一層強大ナル一ノ社交的慾デアルカラデアル。

更ニ一定ノ慾ハ反復或ハ傳播スルコトニヨリテ益々強マル。是レ能働的慾或ハ生産ノ慾デアル。之レニ反シテ他ノ慾ハ反復スルニツレテ弱ハル。是レ受働的慾或ハ消費ノ慾デアル。而シテ生産ノ慾ハ本來消費ノ慾ヨリモ一層速カニ傳播スルモノデアル。是レ恐慌ノ屢々起ル所以デアル。更ニ此ノ生産ガ消費ヨリモ速カニ傳播スル傾向ハ、高等ナル、隨フテ社會的性質ノ大ナル財貨ニ於テホド著シク現ハレテ居ル。例ヘハ産業の生産過多ヨリモ文學的及ビ藝術的の生産過多ノ方ガ一層大ナルガ如キモノデアル。

終リニ需要供給ノ理ハ、經濟學上一般ニ之ヲ客觀的意義ニ解シテ、即チ需要者及ヒ供給者ノ數并ニ呈供サレタル財貨ノ分量ノ方面ヨリ見テ考究サレテ居ルガ、併シ此クテハ到底其眞義ヲ理解スルコトハ出來ナイ。吾人ハ之ヲ主觀的意義ニ解シテ、賣手及ビ買手ノ賣ラントスル慾及ヒ買ハントスル慾、并ニ彼等ノ慾ノ強度及ヒ信ノ度合ヲ考究スルコトニヨリテ、始メテ其眞義ヲ根本的ニ理解スルコトガ出來ルノデアル。<sup>(1)</sup>

慾望ノ眞相ヲ十分ニ理解スル爲メニハ、以上述べシ如ク、慾ノ經濟的役目ヲ考究シタル後、次ニ信ノ經濟的役目ヲ考究セネバナラス。今信ガ經濟生活ニ於テ演ズル深大ナル役目ニ就テハ、經濟

(1) Psychologie Économique, Tome I. p. p. 151-184.

學者ハ一般ニアマリ注意シテ居ラナイガ、併シ種々ナル慾ガ人心ニ起リ、又人心ヨリ消失スルニ就テ、信ノ力、觀念ノ力ハ甚ダ重大ナル働キヲナシテ居ルノデアル。總テ慾ハ一定ノ知覺又ハ觀念又ハ感覺的或ハ智力的判斷ニ伴ナフテ起ルモノデアル。政治的平等熱ハ權利平等ノ確信ヨリ生レタルモノデアル。更ニ出版ノ自由ハ總テノ觀念ヲ汎ク傳播セシムルコトニヨリテ無數ノ新シキ慾ノ傳播ヲ容易ナラシメ、又迅速ナラシメ、而シテ夫レヨリシテ種々ナル新工業ガ勃興シタリデアル。新聞ハ啻ニ其廣告欄ニ於テノミナラズ、其全體ニ於テ絶ヘズ新シキ信ヲ廣告スルコトニヨリテ新シキ慾ヲ挑發シテ居ル。而シテ新聞ガ増加シ、其ノ讀者ガ増加スルニツレテ、生活標準及ビ生産の活動ガ高マル。更ニ總テノ社會ニ於テ新シキ觀念、新シキ發明ハ新シキ慾望ヨリ一層迅速ニ傳播スル、此クテ風俗習慣ニ於ケル革命ハ常ニ思想界ニ於ケル革命ノ結果トシテ起ルノデアル。尙ホ廣告ハ單ニ新シキ發明、新シキ觀念ヲ世ニ知ラシメルダケデナク、之レニ對スル世人ノ注意ト信用ヲ惹起セントスルモノデアル。而シテ夫レガ爲メニ摸倣ノ法則ヲ利用スルモノデアル。(茲ニたゝるど先生ハ經濟上ニ於ケル廣告ノ重要ヲ論ジ、又摸倣ノ法則ニ從フテ廣告ヲ詳シク論ンジテ居ル)。併シ全體新シキ觀念、新シキ發明ニ對スル世人ノ一般の信用ハ如何ニシテ生起スルカト云フニ、是レツマリ社會ノ優秀ト認メラレル部分ガ先ヅ之ヲ受容スルコトカ例トナリ、而シテ例ノ社會心理的力ニヨリテ、之レニ對スル信ガ世人一般ニ傳播スルコト、及ビ人心ノ奥底ニ常ニ潜在スル樂觀的傾向ニヨルノデアル。茲ニ樂觀的傾向ト云フハ、人間ニハ一般ニ恐怖ヨリモ希望、即チ恐ロシキ事ヨリモ望マシキ事ヲ信ズル念ノ一層大ナル傾向アルヲ意味スルノデアル。鐵

道事故ニヨリテ起ル死傷ノ蓋然性ノ度合ハ、拾萬圓ノ富籤ニ當ル蓋然性ノ度合ヨリモ大ナルモノデアルガ、然ルニ世人ハ何等ノ心配ナシニ鐵道ヲ使用シ、而シテ富籤ニ熱中スル。此ノ樂觀的傾向ハ經濟上甚ダ重大ナル意義ヲ有スルモノニシテ、此傾向アルガ爲メニ紙幣ヤ銀行券ヤ手形等ガ容易ク世人ノ信用ヲ得テ一般ニ行ハレ、又貨幣ヤ信用ガ發達スル。更ニ財產權ノ如キモツマリハ經濟生活ニ於ケル信ノ作用ニ基ヅイテ發達スルモノデアル。而シテカカル點ニ着目シテ經濟生活ヲ考察スルト、信ハ慾ヨリモ一層重大ナル役目ヲ演ズルコトガ發見サレルノデアル。尙ホたゝるど先生ハ會話 Conversation ガ信ノ上ニ及ボス影響ガ經濟生活上如何ニ重大ナル結果ヲ生ズルカラ、甚ダ興味深ク論述サレテ居ル。但シ會話ノ社會學的重要ヲ始メテ觀破サレタルハたゝるど先生ニシテ、之レニ就テ興味アル一論文ヲ公ニサレ、尙ホ大著作ヲ公ニスル爲メ大ニ準備サレテ居ツタガ、不幸ニシテ其目的ヲ達セズシテ死去サレタノデアル。終リニたゝるど先生ハ如何ニ生産者ハ得意ノ需要ヲ豫期シ、而シテ經濟學上有名ナル生産ト消費トノ調和ナルモノハ、結局生産者ノ意識的豫想ト組織的思考ニ基ヅイテ成立スルモノデアルカラ詳論シテ、信ノ經濟的役目ヲ甚ダ面白ク説明サレテ居ル。<sup>(2)</sup>

却說慾望ハサキニ述ベシ如ク信ト慾トノ結合ヨリ成ルモノナレバ、以上論ジ來リシ如クニ信及ヒ慾ノ經濟的役目ヲ究明スルトキニハ、慾望ノ本質ノ如何ナルモノデアルカハ明ラカニ理解サレ、吾人ハ更ニ改メテ之ヲ論述スル必要ヲ感ジナイガ、尙ホ慾望ニ就テ特ニ論ジタキ問題ハ二ツアル。一ハ慾望ノ傳播ニシテ、二ハ慾望ノ週期性デアル。今慾望ノ傳播ハ大體上二種ニ分タレル。一ハ

(1) L'opinion et la foule. 1901, p. p. 63-158.

(2) Psychologie Économique. Tome I. p. p. 185-201.



國內の傳播ニシテ、二ハ國際の傳播デアル。國內の傳播ニ於テハ、慾望ハ社會ノ上層ヨリ下層へ、又都市ヨリ田舎へ傳播シテ行ク、而シテ此ノ同化作用ニヨリテ國民の統一及ビ特性ガ強マルノデアル。然ルニ國際の傳播ニ於テ、慾望ガ一國民ヨリ他國民へ傳播メルコトニヨリテ、各國民ノ統一性及ビ特性ガ弱ハツテクル。併シ慾望ノ國際の傳播ハ國際の商業ヲ發達サセ、國際の平和ヲ強メ、文明ノ進歩ヲ促ガス功ガアル。但シ國際の傳播ニ於テ、一定ノ慾望ガ一國民ヨリ他國民ニ傳ハルニ當テモ、先ヅ之ヲ受容スルモノハ社會ノ上層及ビ都市ニシテ、夫レヨリ下層及ビ田舎へ移ツテ行クノデアル。而シテ此等ノ現象ハ總テ根本のニハ模倣ノ法則ニヨリテ説明セラル、モノデアル。尙ホ右ノ理ヲヨク理解スレバ又古來奢侈禁止令ノ決シテ成功シナカツタ所以ヲヨク理解スルコトガ出來ルノデアル。

次ニ慾望ノ週期性ヲ考究センニ、吾人ハ先ヅ之ヲ箇人ノ習慣ニ基ツク箇人の形態ト社會ノ慣習ニ基ツク社會の形態トニ區別スルコトガ出來ル。此等二種ノ形態ハ家族時代ニ於テハ殆ンド區別サレナイガ、社會ノ進化スルニツレテ漸々ニ分化シ、種々交錯スルニ係ラズ大體ニ於テ判然區別サレルモノトナル。而シテ其ノ何レノ形態ニ於テモ習慣的及ビ慣習的ニ循環スル慾望ハ、何レモ始メハ外部ヨリ輸入サレタル新流行トシテ傳播シ、後習慣及ヒ慣習ニ固定セルモノデアル。而シテ慾望ノ週期性ハ之ヲ勞働ノ週期性ト比較シテ考究スルト甚ダ興味アル結論ヲ導クコトガ出來ル今慾望ノ環ハ其ノ箇人的ナルト、社會的ナルトヲ問ハズ、益々複合化シ、或點マデハ省略シ、而シテ益々規律的ニナリ行クガ、之レニ反シテ箇人的勞働ノ環ハ勞働者ガ益々專門的ニナルニツレ

ヲ益々單純化シテ行ク。夫レヨリシテ勞働ヲ嫌惡スル念ガ大ニ強マリ、勞働短縮ノ必要ガ起ル。併シ勞働ノ社會的環ハ省略ハシナイガ、ヤハリ複合化シ規律的ニナリ行クノデアル。更ニ勞働ノ環ハ其ノ生産物ニヨリテ充足サレル慾望ノ繰リ返シテ起ル期間ニ均シキ期間ニ於テ完成スルコトハ稀レデアル。一般ニ慾望ノ循環ハ勞働ノ循環ヨリモ迅速デアル。日々二三度モ繰リ返ス慾望ニ對シテ、之レヲ充足スル財貨ノ生産ニ當ル勞働ノ循環ガ一年ニ只一回シカ完成シナイモノガアル。而シテ此ノ事實ヨリシテ毎日拂又ハ週間拂ノ賃銀ノ必要ガ起ルノデアル。此ノ如キ賃銀ノ必要ハツマリ慾望ノ循環ノ期間ト勞働ノ循環ノ期間トカ一致シナイカニ生ズルノデアル。たゞ先生ハ夫レヨリ家族ノ豫算、諸種ノ社會團體ノ豫算并ニ國家ノ豫算等ニ付テ慾望ノ週期性ニ關スル甚ダ興味アル研究ヲ試ミテ居ルガ、茲ニ之ヲ述ブル暇ガナイデ省イテ置ク。<sup>(1)</sup>

(2) 勞働論 先生ハ勞働ニ就テ、勞働ノ社會心理の本質、疲勞及ビ退屈、諸種ノ勞働ニ認メラレル、貴賤ノ差別、勞働ノ分類、勞働ノ歴史の變遷、勞働及ビ餘暇或ハ安逸ノ週期性等ノ諸問題ヲ論究シ、何レノ問題ニ就テモ經濟學者ノアマリ注意シテ居ラナイ種々ナル方面ヲ趣味深ク論述サレテ居ルガ、茲ニハ一々其ノ大要ヲ述ブル暇ナキヲ以テ、只勞働ノ本質及ビ疲勞ト退屈ニ關スル所論ノ大要ヲ述ベテ、先生ノ勞働論ノ一斑ヲ示スコトスル。

夫レ勞働ノ本質ハ富ヲ復産 reproduce スル爲メニ人力ヲ費ヤスコトデアル。而シテ其ノ復産スルト云フ點ニ於テ勞働ハ發明ト根本的ニ異ナル。勞働ハ本來模倣的ノモノデアル。模倣ト復産ハ勞働ニ於ケル總テデアル。尤トモ何レノ勞働ニ於テモ或度ノ探求ノ努力ガ含マレテ居ル。併シ勞

(1) ibid, p. p. 202-221.

(2) ibid, p. p. 222-280.

働ニ於テ探求サレルモノハ新シキモノゾナイ。夫レハ既ニ幾度モ幾度モ用ヒラレタル方法ニヨリテ遂行サレル處ノ既ニ幾度モ幾度モ追求サレタル目的デアル。全ク新シキモノヲ探求スルゴトハ勞働デナイ。但シ實際ニ於テハ勞働ト發明トハ種々ニ混交シテ居ル。全ク發明ノ分子ヲ含マナイ様ナ勞働モナケレバ、又何等勞働ノ分子ヲ含マナイ様ナ發明モナイ。併シ勞働ニ含マルル發明ノ分子ハ一般ニ甚ダ微少デアリ、又發明ニ含マルル勞働ノ分子モ甚ダ微少デアルカラ、兩者ハ概念的ニハ根本的ニ區別サレルノデアル。更ニ發明ハ大ナリ小ナリ樂シキモノデアルニ反シテ、勞働ハ大ナリ小ナリ苦シキモノデアル。此點ニ付テモ總テノ勞働ハ苦シキモノデナク、樂シキ勞働モアルト云フ人ガアラウ。然リ、樂シキ勞働モアル。併シカカル勞働ハ比較的ニ發明ノ分子ヲ含ムコト大ナルモノデアル。而シテ勞働ハ發明ノ分子ヲ含ムコト比較的ニ大ナルホド其ノ苦痛性ハ減スルモノデアル。之レニ反シテ殆ンド發明ノ分子ヲ含マナイ純勞働ハ極度ニ苦シキ厭フ可キモノデアル。

勞働ハ又經濟學者ノヨク注意シテ居ラナイ一種ノ心理的現象ヲ引キ起ス。一ハ疲勞ニシテ、二ハ退屈デアル。疲勞ニハ筋肉の疲勞ト神經の疲勞或ハ注意ノ疲勞ト稱ス可キモノトノ二種ガアル。前者ハ器械ノ發明及ビ使用ニヨリテ段々減弱セルモノデアルガ、後者ハ寧ろ之レニヨリテ生起セルモノ或ハ大ニ増加セルモノデアル。器械ハ一方ニ於テ筋肉の疲勞ヨリ勞働者ヲ救フタガ、他方ニ於テハ新ラタニ神經の疲勞ヲ加ヘタノデアル。而シテ此ノ疲勞ヨリシテ精神病、自殺、あることりずむ等ガ大ニ増進シテ來タノデ、夫レハ筋肉の疲勞ヨリモ人間ニトツテ遙カニ危險ノ大ナル

モノデアル。要スルニ器械的製造法ノ發達ハ筋肉の疲勞ヲ減少スルト、同時ニ神經的疲勞ヲ大ニ増加スル結果ヲ生ジタノデアル。然ラバ其ハ勞働ノ退屈ニ就テハ如何ナル結果ヲ生ジタカ。此問題ニ就テハたゞ先生ハ明確ナ判斷ヲ下シテ居ラナイ。而シテ退屈ハ疲勞ト同様ナ或ハ夫レ以上ニ大ナル影響ヲ勞働ノ効果ノ上ニ及ボスモノナルコト、隨フテ疲勞ノ減少ヲ圖ルト同ジク退屈ノ減少ヲ圖ル必要、并ニ其ノ方法等ニ就テ稍々詳シク論ジ、又以前ノ勞働ハ一般ニ退屈ヲ生ズルコト少ナカリシコトヤ、勞働ノ種類性質ニ從フテ退屈ヲ生ズル度合ニ差異アルコト等ヲモ稍々詳シク論ジテ居ル。併シ大體上カラ見ルト、先生ハ近世ノ器械的製造法ハ仕事ヲ單純化シ器械化スルコトニヨリテ、勞働ノ退屈ヲ増加スルモノト考ヘラレテ居ルト思フ。トニカク先生ノ退屈論ハ經濟學上甚ダ興味アルモノデアルガ、其說述ガ甚ダ複雑シテ居ツテ、殘念ナガラ茲ニ簡單ニ紹介スルコトハ出來ナイ。

(3) 貨幣及ビ資本論 たゞ先生ガ貨幣ヲ經濟的反復ノ現象トシテ論究サレル理由ハ、ツマリ「一切ノ消費及ビ一切ノ工業的復産ノ模倣的作用ヨリ生マルル眞ニ經濟的ナル分量ハ貨幣ニ於テ化身セル費用價值デアル」ト云フコトニアルノデアル。而シテ先生ハ先ツ貨幣ノ始源ヲ論ジ、貨幣ニ特有ニシテ、其ノ普遍的交換性ヲ説明スル處ノ恒定的、普遍的及ビ無定限的ニ欲望セララル其ノ形質ハ如何ニシテ發生セシカラ心理學のニ究明シ、次ニ貨幣ノ經濟生活ニ於ケル役目ト自然科學ニ於ケル數學ノ役目トヲ比較シテ、其ノ心理的本質ヲ闡明シ、尙ホ貨幣ノ主觀的性質ヲ特ニ高調シテ、之ヲ詳シク究明シ、更ニ貨幣ヲ他ノ二ヶノ社會の大勢力タル權力及ビ權利ト比較シ、

又貨幣ト土地ト比較シテ十分ニ其ノ本質ヲ闡明セントシ、夫ヨリ貨幣經濟ガ箇人及ビ社會ニ於テ生ズル心理的結果ヲ、其ノ善惡ノ兩方面ニ就テ考察シ、進ンデ貨幣變遷ノ社會學的法則ヲ論ジ、終リニ貨幣ニ關スル二三ノ小問題トシテ、ぐれしやむ法則、貨幣分量說、貨幣ハ富夫レ自身ナルヤ又ハ富ノ代理者ナルヤト云フ問題等ヲ簡單ニ論述シテ居ル。<sup>(1)</sup>其ノ中ニハ貨幣ニ關シテ、一般ニ經濟學者ノ注意シテ居ラナイ種々ノ方面ガ、社會心理學上カラ趣味深ク論究サレテ居ル。又貨幣ト數學トノ比較ヤ、貨幣經濟ノ心理的影響等ニ就テ先生ノ論述サレテ居ルコトハ、之ヲじむめる氏ノ説ト比較シテ考察スルト甚ダ興味ガアルガ、茲ニハ紙面ノ餘白ガナイカラ、只上ニ述ベシ如ク先生ノ貨幣論ノ項目ヲ示スダケニ止メテ置キ、次ニ先生ノ資本論ヲ考察スル。

たゞるど先生ハ何故ニ資本ヲ經濟の反復ノ現象トシテ論究シテ居ルカト云フニ、其ノ理由ハ二ツアルト思フ。一ハ「資本ノ觀念ハ始メ貨幣ノ觀念トハ明ラカニ區別サレテ居ツタガ、其後段々發達スルニツレテ之レト混同サレテ來タ」ト云フコトニシテ、二ハ資本ニ關スル無數ノ概念ガ現ハレテ居ツテ、相互ニ他ト種々異ナツテ居ルガ、併シ「資本ハ富ノ復座ニ役立ツモノデアル」ト云フ點ニ於テハ、諸家ハ一致シテ居ルト云フコトデアル。而シテ先生ハ資本ニ就テ左ノ諸問題ヲ論究シテ居ル。1 資本ノ定義、始源、本質、2 本質の資本ト補助資本、3 發明資本ノ破壞ノ二原因、4 此問題ニ關スル謬見ノ打破、5 資本公有、6 資本利子、7 貨幣資本ノ循環、8 かゝる、まゐるくすト經濟的循環、9 信用及ビ貸附。<sup>(2)</sup>茲ニハ只先生ノ資本概念ノ大要ヲ述ベテ、先生ノ資本論ノ一斑ヲ示スコトスル。但シ先生ノ資本論ハ先生ノ資本概念ヲ基礎トシテ立テラレテ居ルカラ、其

(1) ibid, p. p. 281-329.

(2) Simmel, Philosophie des Geldes, 1900.

拙稿、現代大都市ノ精神的及ヒ經濟的意義、國民經濟雜誌大正四年十月號、

(1) ibid, p. p. 330-380.

ノ資本概念ノ精髓ヲヨク會得スレバ、其ノ資本論ノ大體ハ敢テ推察スルニ困難デナイノデアル。  
今經濟學者ノ一般ニ承認スル處ニヨレバ、資本トハ新生產物ヲ生産スル爲メニ、勞働ニ對シテ  
必要ナル或ハ有益ナル舊生產物ノ一部分デアル。此資本概念ハ大體上眞實デアルガ、併シ甚ダ漠  
然タルモノデアル。ソレデ之ヲ批判的ニ考究スルト、吾人ハ其ノ中ニ判然區別ス可キ二ツノモノ  
ノ含蓄サレテ居ルコトヲ見ルノデアル。一ハ本質的或ハ必然的資本ト稱ス可キモノニシテ、即チ  
現實ナル一切ノ富ノ第一根源タル當時ノ發明ノ全體デアル。吾人ハ又之ヲ發明資本ト稱スルコト  
ガ出來ル。二ハ補助資本ト稱ス可キモノニシテ、有益デアルガ、必ズシモナケレバナラヌト云フ  
モノデナイ。ツマリ發明ヨリ生レタル生產物ノ一部分ニシテ新生產物ヲ造ルニ役立ツモノデアル。  
吾人ハ又之ヲ道具資本ト稱スルコトガ出來ル。經濟學者ハ、一般ニ此ノ方面ノミニ就テ資本ヲ觀念  
シ、本質的必然的資本トモ稱ス可キ發明ノ方面ニハ、殆ンド全ク注目シテ居ラナイガ、是レ彼等  
ガ未ダニ資本ノ眞相ヲ充分ニ理解スルニ至ラナイ所以デアル。而シテ吾人ハ此ノ本質的資本ト補  
助資本トノ關係ヲ植物ノ果實ニ於ケル胚種ト子葉トノ關係ニ準ラヘテ考察スルト明ラカニ其眞義  
ヲ理解スルコトガ出來ル。胚種ハ新ラタニ植物ノ發生スル爲メニハ必要缺ク可カラザルモノデア  
ル。而シテ子葉ハ胚種ノ成育ニ甚ダ有益ナルモノデアルガ、併モ缺ク可カラザルモノデナイコト  
ハ、子葉ノ伴ナハナイ胚種アルヲ見レバ明白デアル。ソレデ吾人ハ本質的資本ヲ胚種資本ト稱シ、  
補助資本ヲ子葉資本ト稱スルコトガ出來ル。今資本ノ一般的概念ニ就テ上述ノ如ク、本質的資本  
或ハ發明資本或ハ胚種資本ト補助資本或ハ子葉資本或ハ道具資本トヲ區別シテ考察シテ見ルト、

吾人ハ資本ノ真相ヲ餘程明晰ニ理解シ、又資本ニ關スル諸問題ヲ穩當ニ解決スルコトガ出來ルト思フ。例ヘハ補助資本ハ普通ニ考ヘラレル如ク、勞働ト貯蓄トニヨリテ増長スルガ、併シ本質的資本ハ天才及ビ能才ノ働キニヨリテ始メテ増進スルモノデアル。而シテ資本ノ發達トハ根本的ニハ本質的資本ノ發達ヲ意味スルモノデアルカラ、經濟生活ニ於テモ、根本的ニ重要ナルハ、天才及ビ能才ノ發明的活動デアルコトガ會得サレルノデアル。又補助資本ハ物理的事件ニヨリテ破壊サレルガ、本質的資本ハ如何ナル物理的異變ニヨリテモ破壊サレナイ。之ヲ破壊スルモノハ、新生産物ヲ以テ舊生産物ヲ取り代ヘル新發明カ、又ハ舊本質的資本即チ舊發明ヲ無用ニ歸セシムル欲望ノ變動デアル。更ニ右ノ見解カラ考察シテ見ルト、資本ノ公有ニ關スル社會主義者ノ主張ハ、之ヲ本質的資本或ハ發明資本ニ適用スルコトハ全然不可能デアリ、又補助資本或ハ道具資本ニ適用シテ果シテ豫期ノ效果ヲ奏スルヤ否ヤハ甚ダ疑ハシキコトガ覺ラレルノデアル。要スルニたゞるど先生ノ資本論ハ社會主義論者ノ勞働者萬能論ニ反對シテ、生産ニ於ケル發明家、天才家、企業家等ノ力ガ根本的ニ如何ニ重大ナルモノナルヤヲ論證セントスルモノトシテ、甚ダ興味アルモノデアル。

## (九)

本節ニ於テハたゞるど先生ノ經濟心理學ノ第二部門經濟的反對論ノ主意及ビ其ノ一班ヲ簡單ニ説述スル。<sup>(1)</sup>

先生ハ經濟的反對ヲ内部的反對即チ個人ノ精神内ニ行ハルル信及ビ慾ノ衝突ト、外部的反對即

(1) La psychologie Économique, Tome II. p. p. 1-208

チ箇人ト箇人トノ間ニ行ハルル信及ビ慾ノ衝突トニ大別シ、而シテ先ヅ内部的反對トシテ代價ヲ  
 論シテ居ル。蓋シ先生ノ見ル處ニヨレバ、財貨ノ價值或ハ代價ハ内部的衝突、即チ買手及ビ賣手  
 ノ精神ニ於テ諸慾及ヒ諸信ノ間ニ行ハルル鬭爭ノ結果デアアルカラデアル。今カカル見解ヨリ立説  
 サレタル先生ノ代價論、價值論ハ正統派ヤ社會主義派ノ客觀的價值論ニ反シテ主觀的心理学の價  
 値論デアアルコトハ云フマデモナイ。而シテ先生ハ獨特ノ社會心理学の見地ヨリシテ、せぼんすヤ  
 わるらヤ奧太利派ノ學者等ト大體上同様ナ思想ニ達セラレタノデアアル。併シ其等ノ人々ハ只箇人  
 心理学の見地ヨリ立論シテ居ルニ對シテ、先生ハ主トシテ社會心理学の見地ヨリ立論シテ居ルカ  
 ラ、詳細ニ比較シテ見ルト、其等ノ人々ノ説ノ缺點ヲ補ナフ處少ナク、且ツ價值判斷ニ於ケ  
 ル暗示作用ノ微妙ナル働キヲ闡明スル點ニ於テ、先生ノ説ハ經濟學者ノ大ニ注意スル價值ガアル  
 ト思フ。尙ホ近來價值論ニ於テ段々社會學的考察ガ加味サレテ來タノハ、直接又ハ間接ニたゝる  
 ど先生ノ説ノ影響ニ基ヅクモノデアアルマイカト思フ。要スルニ傳來ノ客觀的價值論ニ對シテ、第  
 十九世紀ノ後半期間、殊ニ其終リ頃ニ至ツテ著シク發達シ來レル主觀的心理学の價值論ハ、社會  
 心理学ノ方面ヨリ適當ナル補充又ハ修正ヲ受クルコトガ甚ダ必要デアアルガ、此點ニ於テ經濟學者  
 ハたゝるど先生ノ價值論ヲ考究スレバ、得ル處決シテ渺少デアアルマイト思フ。余ハ茲ニ此問題ニ  
 就テ少シク論ンジタイト思フガ、併シ問題ハアマリニ大キクナルカラ、他日別ニ一論文ヲ書イテ、  
 之ヲ論ンズルコトトスル。尙ホ先生ハ正常價格ニ對シテ正當價格ヲ論ジテ居ルガ、此問題ハ今日  
 ノ社會問題ノ考究上甚ダ重要ナルモノト思フ。而シテ先生ノ令息あるふれど、たゝるど氏ハ一書<sup>(1)</sup>

(1) Alfred de Tarde, L'idée du juste prix. 1906.



ヲ公ニシテ價值論ノ全體、殊ニ正當價值ニ關スル先生ノ說ヲ詳シク展開シテ居ルガ、大ニ參考ノ價值ガアル。

外部の反對、即チ箇人ト箇人又ハ團體ト團體トノ間ニ行ハルル信及ヒ慾ノ鬭爭ニ就テハ、先生ハ先ヅ之ヲ(1)同一工場内ノ生産者間ノ衝突、(2)同一貨物ノ國內生産者間ノ衝突、(3)同一貨物ノ國內生産者ト外國生産者トノ衝突、(4)武器ノ國內生産ト外國生産トノ衝突、(5)異ナレル貨物ノ生産者間ノ衝突、(6)消費夫レ自身間ノ衝突、(7)生産ト消費トノ衝突、(8)貨幣ノ衝突等ニ區別シテ詳細ニ論述サレテ居ル。而シテ今此ノ如ク生産及ヒ消費ニ就テ、其ノ反對ノ場合ヲ詳シク分類シテ考察スルト、一般ニ經濟學者ノ注意シテ居ラナイ種々ナル點ガ、新ラタニ注意サレテクルノデ、吾人ハ先生ノ說ヨリひんとヲ得テ、種々趣味アル研究ニ進ムコトガ出來ルノデアル。先生ハ次ニ激烈ナル經濟的衝突トシテ同盟罷業殊ニ恐慌ヲ詳論シ、終リニ先生ノリテ反對ト稱セラル、モノヲ、特ニ經濟生活ニ就テ研究サレテ居ル。併シ全體カラ見ルト、先生ノ外部の反對論中ニハ、格別創見トシテ注意ス可キモノハ少ナイト思フカラ、茲ニハ別ニ之ニ就テ説述スルコトハナサズニ置ク。

(十)

たゞるゝ先生ノ經濟心理學ノ最後ノ部門ハ經濟的適應論デアルガ、先生ハ先ヅ經濟的反復論ニ於テ經濟的與料ヲ考察シ、次ニ經濟的的反對論ニ於テ經濟的問題ヲ考察シ、而シテ終リニ經濟的適應論ニ於テ其等ノ問題ノ解決ヲ試ミントスルノデアル。<sup>(1)</sup>

今經濟的適應ハ、先ヅ生産ト消費トノ間、生産ト生産者トノ間、及ビ諸種ノ生産相互ノ間、并

(1) Psychologie Économique, Tome II. p. p. 209-446.

ニ諸種ノ消費或ハ慾望相互ノ間等ニ於ケル量の適應ト質的適應トニ區別シテ考究サレネバナラスガ、更ニ深ク吟味シテ見ルト箇人の適應ト社會的適應トニ區別シテ考究シ、又消極的適應ト積極的適應トニ區別シテ考究スル必要カ明ラカニ認メラレルノデアル。

經濟上箇人の適應或ハ箇人ノ内部的適應ト云フハ、箇人ニ於ケル箇人の生産ト消費トノ調和ヲ意味シ、社會的適應或ハ外部的適應ト云フハ、箇人ト箇人トノ間ニ於ケル生産ト消費トノ調和ヲ意味スルモノデアルガ、前者ハ經濟生活ノ發達スルニツレテ自カラ後者ヲ惹起スルト、同時ニ又後者ノ補充ニヨラズバ完成スルコトガ出來ナイモノデ、兩者ノ間ニハ不可離のナ關係が存在スルノデアル。而シテ社會的適應ハ諸種ノ勞働ノ外部的調和タル分業ト、諸種ノ慾望ノ外部的調和タル交換トノ兩者ヨリ成立スルモノデアルガ、然ルニ分業ハ發明ニヨリテ惹起サレタル創始的活動ヨリ發生スルモノデアル。詳シク云ハハ從來無關係ノモノ或ハ相反對スルモノト見做サレシ諸般ノ勞働ガ共同ノ目的ニ對シテ適應スルニ至ルハ、根本的ニハ箇人ノ腦裡ニ現ハル發明ノ調和即チ觀念ノ調和ニヨルノデアル。ツマリ此發明或ハ觀念ノ調和ガ外部化シ、分業的團結トナツテ實現スルノデアル。要スルニ發明ハ分業ノ母ニシテ、而シテ又分業ヲ通ジテ交換ヲ生ムノデアル。消極的適應ハ反對ヲ禁止スルコト、殊ニ反對スルニ項ヲ完全ニ分離シテ其ノ反對ヲ除キ去ルコトニヨリテ成立スルモノニシテ、是レ即チ法律ガ箇人の行動ノ領分ヲ明確ニ限定スルコトニヨリテ成就スル處ノモノデアル。換言スレバ權利ハ消極的適應ヲ成立セシムル手段デアル。此クテ權利殊ニ財產權ガ經濟的適應ノ一問題トナルノデアル。而シテ積極的適應ハ諸般ノ信及ヒ欲ヲシテ

相互ニ他ヲ確カメ、他ヲ助ケシムルコトニヨリテ成立スルモノ、即チ團結ニヨリテ具體的ニ實現スルノデアル。然ルニカカル意味ニ於テ云フ團アツクシヤシム結ハ、只發明ニヨリテノミ實現サレ得ルモノニシテ、團結トハツマリ擴大サレ外部化サレタル發明ニ外ナラス。尙ホ正統派ノ經濟學ニ於テハ、利己心ノ自發的合致ヲ前定シ、箇人ノ經濟的利害ハ自然ニ一致スルモノト見テ、經濟的調和ヲ説テ居ルガ、併シ利己心ハ自カラニ合致ジ、箇人ノ利害ハ自カラニ一致スルモノデナク、利己心ノ合致、箇人の利害ノ一致ハ只吾人ノ工夫計畫ニヨリテノミ、始メテ成立シ得ルモノデアル。而シテ此工夫計畫トハ即チ發明ニ外ナラス。此クテ吾人ハ、經濟生活ニ於テ、發明ノ演ズル役目ハ、如何ニ重大ナルモノデアルカラ明ラカニ認メルコトハ出來ルノデアル。要スルニ發明ハ經濟的適應、即チ一般ニ經濟的進化ト稱セラルルモノノ初發的能爲者デアリ、又常ニ其ノ主要ナル能爲者タルモノデアル。

たゞるど先生ハ上述ノ見解ニヨリテ、經濟的適應論ニ於テ、先ヅ經濟的想像即チ發明及び其ノ發達ヲ論ジ、夫ヨリ財産、交換、及び團結ヲ論ジテ居ル。尙ホ最後ニ經濟的の反復、反對及び適應ノ何レニモ關係シテ居ルガ、特ニ反復及び反對ニ關係スルコト大ナルモノトシテ、附録ノ如キ形式ニテ、人口問題ヲ社會心理學的ニ論究シテ居ル。而シテ其等ノ諸問題ノ研究ニ於テ先生ハ社會心理學上ヨリ種々趣味深イ意見ヲ述ベテ居ルガ、茲ニ一々之ヲ説述シテ居ル暇ガナク、且ツ經濟的想像及び其ノ發達ノ論究ニ於テ、先生ノ經濟的適應ニ關スル根本思想ハ、明ラカニ窺ヒ得ラルカテ、茲ニハ只其ノ大要ヲ述ブルニ止メテ置ク。<sup>(1)</sup>

(1) ibid, p. p. 230-297.

先生ハ先ヅ發明一般ノ原理ヲ論シ、夫ヨリ經濟的發明ヲ工業的發明ト商業的發明トニ大別シテ詳論シテ居ル。茲ニ先生ノ發明原理論ヲ詳シク述ブル暇ハナイデ、只其ノ根本思想ノ要點ヲ極簡單ニ述ブルニ止メルガ、今其ノ要點ト云フハ左ノ如キモノデアル。(1)發明家ハ嘗ニ夢想家デアルバカリデナク、又熱情家デアツテ、其ノ固定觀念ハ常ニ固定感情ニヨリテ養ハルルモノデアル、隨フテ一見スレバ神經病者、精神病者ト異ナラナイ様ニ考ヘラレルガ、根本的ニハ大ニ異ナツテ居ルコト、(2)發明家ニ於テハ、潜在意識或ハ無意識ガ其ノ發明的活動ニ協働スル、是レ一般ニいんすびれーじよんと稱セラルルモノデアルガ、然ルニ勞働者ノ働キニ於テハいんすびれーじよんハ全ク行ハレナイ、而シテ此點ニ於テ發明家ノ働キト勞働者ノ働キトノ間ニ一ノ根本的差別ガ立テラレルノデ、要スルニ發明ハ餘暇或ハ安逸 *loisir, leisure* ト研究トノ娘ニシテ、新シキ或物ノ創造デアルコト、(3)一切ノ發明ハ幾多ノ摸倣ノ結合デアルト云フ點ニ於テ發明ハ如何ニ社會的圈境ノ影響ヲ受ケルモノデアルカハ明白ニ認メラレルガ、併シ發明ハ全然社會的圈境ノ生産物デナイコトハ、摸倣ヲ結合シテ新シキ發明ヲ產出スル爲メニハ、特別ノ腦髓ノ必要ナルヲ見テ明ラカデアルコト、ツマリ幾多ノ摸倣ガ單ニ會合シ并存スルニ止マラズ、相結合シ融合シテ新シキ發明トナル爲メニハ、天才家ノ箇人的因素ガ必要缺ク可カラザルモノデアルコト、(4)發明ハ本來一ノ純知力の事實、一ノ演繹的推理、一ノ三段推論デアルコト、(5)併シ是レト同時ニ發明ニ於テハ偶然的因素カ甚ダ重大ナル役目ヲ演ズルコト、先生ハ此ノ偶然的因素ノ重要ハ從來一航ニ觀却サレテ居ツタトテ殊ニ之ヲ高調シテ論ジテ居ル。以上述ベシ事ハたゞ先生ノ發明原理論ノ根本思想ノ要

點デアルガ、之ヲ詳論シタル後、先生ハ特ニ經濟的發明ヲ論ジ、之ヲ工業的發明、即チ人間ノ勞働或ハ器械ノ働キニヨリテ原料ヲ化成スル事ト、商業的發明、即チ工業的發明ニヨリテ製造サレタル財貨ヲ、箇人的慾望ノ充足ニ適合スル場處ニ移動セシムル事トニ大別シテ居ル。

工業的發明ハ、自然ヲ人間ニ適應セシメ、又人間相互ニ適應セシメ、而シテ物價ノ漸次的低下、平均勞働時間ノ漸次的減少及ヒ之レニ伴フ餘暇ノ増加ニヨリテ經濟的進歩ヲ促進スル結果ヲ生ズル。工業的發明ハ一方ニ於テハ自然ヲ人間ノ爲メニ利用スル傾向ヲ益々増進セシムルト同時に、他方ニ於テハ人間ヲ人間ノ爲メニ利用スル傾向ヲ愈々減少セシムル。又分業、交換及ヒ團結ヲ發達サセテ、人間ト人間トノ相互的適應ヲ大ニ進歩セシムル。更ニ勞働ノ生産的効驗ヲ益々増大スルコトニヨリテ、餘暇或ハ安逸ヲ増加セシメ、而シテ餘暇ノ増加ニヨリテ社交的精神的慾望ヲ大ニ増長セシメル。此クテ工業的發明ニヨリテ實現セラルル經濟的進歩ハ結局精神的生活ノ勝利ヲ意味スルノデアル。たしるど先生ハ、工業的發明ノ發達ガ上述ノ結果ヲ生ズル社會心理的過程ヲ、巧妙ニ又趣味深ク説述サレテ居ルガ、茲ニハ之ヲ説述スル暇ガナイカラ省イテ置ク。

商業的發明ノ結果ニ就テモ、上ニ工業的發明ノ結果ニ就テ述ベシ事ハ、大體上其儘ニ適用サレルガ、たしるど先生ハ特ニ交通運輸機關ノ發明ニ就テ、特ニ商業的發明ノ結果ヲ詳論シテ居ル。茲ニハ只其要點ダケヲ述ベテ置クガ、運輸ノ進歩ハ益々市場ヲ擴大シ、國民的分業ヲ發達サセルコトニヨリテ人類ノ經濟的調和ヲ益々有効ナラシムル。而シテ一國內ニ於テハ民政的平等化ノ發達ヲ大ニ助長スルガ、國際間ニ於テハ始メハ國民的貴族トモ稱ス可キ一種ノ新貴族ヲ發達サセル、

(例へハ國際的經濟生活ニ於テ英國民ノ占ムルガ如キ、又今日獨逸國民ノ占メント努力シツツアルガ如キ地位) 併シ發明ハ總テ始メハ獨占的ノモノニシテ後ニハ一般化スルモノデアルカラ、商業的發明モ結局ハ國際的ニモヤハリ平等化ノ傾向ヲ發達サセルノデアル。

たゞるゝ先生ハ終リニ經濟的進化ニ於ケル發明ノ役目ヲ詳論サレテ居ル。從來經濟的進化ノ諸因素ヲ研究セル人々ハ少ナクナイ。併シ何レモ一般ニ其ノ最重要ナルモノヲ全ク觀過シテ居ルカ、又ハ適當ニ之ヲ重要視シテ居ラナイ。而シテ其ノ最モ重要ナル因素ト云フハ、即チ箇人的發明デアル。經濟的進化ハ、其ノ何レノ方面ニ就テ考察スルモ、結局ハ箇人的發明、即チ發明家ノ腦髓ニ於テ幾多ノ觀念ガ有効ニ結合スルコトニ淵源ヲ發シテ居ル。(先生ハ多數ノ實例ヲ舉ゲテ之ヲ證明シテ居ル)。而シテ發明ノ發達ト云フコトニ、一ツノ意義ガアル。一ハ新シキ發明ノ出現ニシテ、二ハ舊發明ノ摸倣的傳播デアル。但シ新發明モ摸倣的ニ傳播シナケレバ社會的ニ意味ハナイ。而シテ發明ノ摸倣的傳播ニヨリテ競争、即チ經濟的反對ノ擴大ト團結ノ發達トノ平行的傾向ガ現ハレテクルノデアル。併シ團結ノ發達ハ經濟的進化ノ最終<sup>ラ、デム、ファイナル</sup>項或ハ歸趨デアル。而シテ團結ノ發達ハツマリ發明ニヨリテ行ハルルモノニシテ、最初ニ工場ヲ編制シ、諸人ノ勞働ヲ共同目的ニ結合セシムルモノハ發明家デアル。要スルニ發明ハ交換、分業及ビ團結ニヨリテ外部のニ實現セラルル一切ノ經濟的適應ノ心理的根源デアル。

## (十一)

却說タールド先生ノ經濟心理學ノ大要ハ以上述べ來リシガ如キモノデアルガ、余ハ少クモ其ノ

尤モ重要ナル思想ヲ一々批判的ニ考察シ、以テ經濟現象ノ心理學的研究ガ、經濟學ノ基本的部門トシテ、斯學ノ健實ナル發達ニ如何ナル貢獻ヲナスモノデアルカラ具體的ニ論究スル目的デ、本論文ニ着手シタノデアル。然ルニたゞるど先生ノ經濟心理學ハ一向經濟學者間ニ知ラレテ居ラナイガ爲メニ、先ヅヤ、詳シク之ヲ紹介スルノ必要ヲ感じ、而シテ夫レガ爲メニ遙カニ豫想外ノ紙面ヲ費ヤシタカラ、始メノ計畫ヲ實行スルコトガ出來ナクナツタ。之レデ本論文ニ於テハ、已ヲ得ズ、先生ノ經濟心理學ノ概括的評價ヲ試ミルニ止メ、詳シキ事ハ稿ヲ改メテ論述スルコトニシタ。

先ヅ經濟學ニ於ケル方法論ノ上カラ見ルト、たゞるど先生ノ經濟心理學ハ根本的ニハ演繹法ヲ用ヒルモノデアルガ、併シ歴史學、土俗學、統計學其他諸般ノ社會科學ノ結果ヲ適宜ニ又巧妙ニ利用シテ居ツテ、決シテ正統派ノ演繹法ヤ、又奧太利派ヤ數學派ノ演繹法ノ如キ乾燥ナモノデナイ。而シテ或意味ニ於テハ演繹法ト歸納法トノ巧妙ナル結合ヲ試ミタルモノト見做スコトモ出來ル。サレバ方法論上カラ見テ先ヅ先生ノ經濟心理學ハ現代の性質ヲ明ラカニ發揮シテ居ル。次ニ心理學的研究ノ方面ヨリ考ヘルト、たゞるど先生ノ經濟心理學ハ奧太利派及ビ數學派ノ說ニ於テ見ルガ如キ心理學的及ビ數學的研究ノ結果并ニびゆひや一派ノ人々ノ說ニ於テ見ルガ如キ心理學的研究ト歴史學的及ビ土俗學的研究トヲ巧妙ニ結合シテ試ミタル研究ノ結果ヲ補充シ、又確證スル處ガ多クシテ、やはり現代の意義ヲ充分ニ發揮シ居ル。殊ニ社會心理學の方面ノ研究ニ至ツテハ、先生ニヨリテ始メテ其重要ガ明白ニ證明サレタト云フテモヨイ。併シ先生ノ經濟心理學

ハ簡人心理學の研究ノ方面ニ於テ、甚ダ不完全デアル。先生ハ簡人心理學の研究ヲ包攝セル社會心理學の研究ヲ行ナフコトヲ主眼トシテ居ルガ、併シ實際ニ於テハ、先生ノ研究ハ大ニ社會心理學のニ偏シテ居ル、或ハ主トシテ社會心理學の研究ヲ試ミルニ止マツテ居ル。是レ現代ノ經濟學ノ研究ニ於テハ、此ノ方面ニ注目スル人々ガ殆ンドナク、此方面ハ甚ダ不完全ナル狀態ニアルガ爲メニ、先生ハ特ニ此方面ニ力ヲ盡クサレタノデアルト解スルコトモ出來ルガ併シトニカク先生ノ經濟心理學ニ於テ、簡人心理學の研究ノ不充分ナルコトハ、心理學の方法ノ完成ヲ望ム上カラ見テ、其重要ナル一缺點デアルト云ハチバナラス。要スルニ塊太利派ヤ數學派ノ心理學の研究ハ主トシテ簡人心理學のニ偏シテ居ツテ、社會心理學のニ之ヲ補充スル必要アルト正反對ニ、たゞるど先生ノ心理學の研究ハ主トシテ社會心理學のニ偏シテ居ツテ、之ヲ簡人心理學のニ補充スル必要ガ感ゼラレルノデアアル。併シ此缺點アルニ係ラズ、又假令先生ノ說ハ其儘ニ承認サレルコトハ出來ナイデ、多クノ修正補充ヲ要スルニセヨ、トニカク社會心理學ノ方面カラ見レバ、經濟生活ノ諸現象ハ、如何ニ新シキ光ノ下デ、如何ニ新シキ意義ヲ發揮シ來ルカヲ示スニ於テ、先生ノ經濟心理學ハ經濟學ノ發達ニ貢獻スル處決シテ尠少デナイト思フ。殊ニ經濟現象ヲ只客觀の方面ノミカラ研究スルコトノ穩當ナラザルヲ、特ニ正統派ノ經濟學說ノ深刻ナル批評ニヨリテ明ラカニシ、而シテ其ハ本來主觀の方面ヨリ考察シナケレバナライモノナルヲ充分ニ闡明サレタル點ニ於テ、先生ノ經濟心理學ハ將來經濟學ノ發達シ行ク可キ正路ヲ指示スルモノト考ヘルコトガ出來ル。隨フテ又唯物史觀說ノ根本的ニ不完全ナル見解デアアルコトハ、先生ノ經濟心理學ヲ閱讀ス



ルコトニヨリテ、最モ痛切ニ感ゼラレルノデアル。

又しゆもらー氏ガ其經濟學上ノ大著作ニ於テ試ミタル計畫、即チ經濟學ヲ密接ニ社會學ニ結び付ケテ建設セントスル計畫ハ、同氏ノ社會學ノ概念ガ甚ダ漠然トシテ居ツテ、判然限定サレタルモノデナイガ爲メニ、甚ダ不満足ナル結果ニ終ツテ居ルガ、たゝるゝ先生ハ如何ナル意義ニ於テ經濟學ハ根本的ニ社會學ニ結合スルモノデアルカラ十分明白ニ指示スルコトニヨリテ、經濟學上しゆもらー氏ノ偉大ナル計畫ヲ完成セルモノト見做スコトガ出來ル。經濟學ハ本來社會學のナ科學ニシテ、社會學ヲ基礎トシテ建設セラル可キモノナルヲ論ンジテ居ル人々ハ、社會學者間ニモ亦經濟學者間ニモ近來大ニ増加シテ來タ。併シ其ノ眞義ヲ充分明白ニ論述シタ人々ハ甚ダ少ナイガ、たゝるゝ先生ハ上述ベシ如ク、先生ノ社會學ノ原理メル信慾説ヤ、發明摸倣説ヲ基礎トシテ、經濟現象ノ根本的説明ヲ試ミ、又經濟學ノ諸部門ヲモ社會學ノ部門分ケニ準ンジテ、經濟的の反對論、經濟的の反對論及ヒ經濟的の適應論ニ分ツテ論述スルコトニヨリテ、經濟學ガ社會學ヲ基礎トシテ建設サル可キモノデアルト云フ主意ヲ、始メテ充分ニ闡明サレタノデアル。此ノ部門分ケハ經濟學上種々ナル不便ヲ伴ナフコトハ、サキニ述ベシ如クデアル。併シトニカク經濟學ノ社會學的意義ヲ闡明スルニ於テ遺憾ナキモノト思フ。要スルニたゝるゝ先生ハ經濟學上ニ於テ少クモ形式上しゆもらー氏のノ大計畫ヲ最モヨク成就サレタト見做スコトガ出來ルノデアル。

更ニ經濟學ノ出發點モ到着點モ人間デアルト云フコトハ、茲ニ改メテ述ブル必要モナイホド、今日ノ經濟學者ノ一般ニ承認シテ居ル思想デアル。併シ此思想ノ眞義ハ只之ヲ箇人心理學的のニ考

察スル以上ハ、未ダ充分ニ理解シ得ラレナイモノデアル。而シテたゞるど先生ノ如ク、之ヲ社會心理學的ニ考察スルニ於テ、始メテ其ノ眞義ガ充分ニ又豊富ニ理解サレルノデアル。サレバ此點ニ於テモたゞるど先生ノ經濟心理學ノ貢獻スル處ハ決シテ渺少デハナイ。經濟學ノ對象ハ人間デアルト云フ眞義ヲ充分ニ理解セントスル人々ハ、是非先生ノ「經濟心理學」ヲ一讀スル必要ガアルト思フ。

尙ホ經濟的進化ニ於ケル發明ノ勢力ニ關スル先生ノ說ニハ、大ニ注意ス可キモノガアル。發明ト勞動トノ區別ニ關スル先生ノ思想ハアマリ精確ナモノデナイ。實際ニ於テ、先生ノ云ハル、ガ如キ意味デ、兩者ヲ判然區別シ難イコトハ、先生自身モ認メラレテ居ルホドデアル。然カモ兩者ノ間ニ何等カノ根本的差異ノ存在スルコトハ認メザルヲ得ナイ。若シ之ヲ認メナイニ於テハ、吾人ハ社會主義者ノ勞動說ヲ承認セザルヲ得ナイ。兩者ノ間ニ何等根本的ナ差異ガ存在シナイモノト見ルニ於テハ、發明家、企業家ノ働キモ勞動者ノ働キト何等異ナル處ナク、兩者ハ同一ノ單位ニ還元セラレ、又之レニヨリテ計算サル可キモノトナル。併シカ、ル見解ハ社會主義論者ノ如何ニ巧妙ナル説明ヲ以テスルモ、尙ホ吾人ヲ満足セシムルニ足ラヌ。吾人ハ何ントハナシニ、發明家、企業家ノ働キト勞動者ノ働キトノ間ニ根本的ナル差異アルヲ感ズル。而モ此差異ヲ充分ニ究明シタル人ノナイガ爲メニ、社會主義的勞動說ノ如キモノモ堂々トシテ唱ヘラレテ居ルノデアル。サレバ今日ノ經濟學ニ於テ發明、企業ノ働キト單純ナル勞動トノ間ニ存在スル根本的差異ヲ明白ニ究明スルコトハ甚ダ重大ナル問題デアルト思フガ而モマダ之ヲ明白ニ究明シタル人ハナイ。

此際ニ當テ、たゞるど先生ノ發明ト勞働トノ區別ハ、假令其儘デハ承認サレ難イモノデアルトシテモ、少クモ或物ヲ暗示スルモノトシテ、大ニ注意スル價值ガアル。而シテ吾人ハ先生ノ思想ヨリひんとヲ得テ、改メテ發明并ニ勞働ノ心理ヲ充分ニ研究スルコトガ必要デアルト思フ。尙ホ先生ノ發明ノ本質ニ關スル見解ハ不充分デアルトシテモ、一切ノ經濟的進化ハ結局發明ニ淵源ヲ發スルモノニシテ、箇人の人格的勢力ガ一切ノ社會進化ニ於ケル如ク、又經濟的進化ニ於テモ根本的ニ重大ナルモノデアルト見ル先生ノ思想ハ、經濟學上大ニ注意ス可キモノデアルト思フ。今日經濟學者ガ國民經濟發達ノ條件或ハ因素トシテ、一般ニ最も重要視スルモノハ、土地或ハ自然即チ地理的圍境ト、人口ト、社會的條件ト、科學及ヒ技術トデアル。而シテ其ノ科學及ヒ技術并ニ社會的條件ヲ論述スル中ニ、暗ニ發明發見ヲ含マセテ論究シテ居ルガ、併シ一般ニ發明發見ヲ非箇人のナ社會的生產物トシテ考察シテ居ツテ、其ノ本來箇人的性質ノモノデアルコトヲ明ラカニハ理解シテ居ラナイ。隨フテ吾人ハ彼等ノ論述スル處ニヨリテ、天才家發明家ガ經濟的發達ノ最も根本的ナ本質的ナ原動力デアル所以ヲ到底解スルコトハ出來ナイノデアル。科學及ヒ技術ノ發達ハ天才家發明家ノ努力ニヨリテ始メテ可能トナルモノデアリ、又人口ノ増加モ生產技術ニ於ケル發明發見ニヨリテ實現スルモノデアリ、又社會的條件ノ發達モ同ジク發明發見ニヨリテ成就スルモノデアリ、又地理的圍境ノ經濟的利用モやはり發明發見ニヨリテ始メテ十分ニ遂行サレルノデ、決シテ其儘デ經濟的發達ノ因素トナルモノデハナイ。サレバ國民經濟發達ノ最も根本的本質的ナ因素トシテ、吾人ノ最も重要視ス可キモノハ發明發見デアル。而シテ發明發見ハ大ニ社會的

圖境ヤ自然の圖境ノ影響ヲ受ケルガ、而モ本來ハ箇人の生産物、發明家天才家ノ所産デアル。吾人ハ發明發見ガ經濟的進化ノ根本的勢力デアルヲ學ブコトニヨリテ、又發明家天才家ノ箇人の活動ガ經濟的進化ニ於テ、如何ニ重要ナル勢力デアルカヲ覺ルノデアル。而シテ此點ヲ始メテ科學的ニ又巧妙ニ論述サレタルハたゝるど先生デアル。サレバ先生ノ經濟心理學ハ其ノ經濟的發明論ニ於テ最モ重大ナル意義ヲ有スルモノト思フ。全體たゝるど先生ノ社會學ハ其ノ模倣說ノ方面ニ於テ始メテ世ニ認メラレ、先生ハ模倣ノ社會學者、或ハべるぐそん氏ノ云ハレシ如ク模倣ノ哲學者トシテ、殊ニ有名ニナツタノデアル。隨フテ先生ノ社會學ヲ研究スルモノハ、一般ニ先生ノ模倣說ニ最モヨク注目シテ、之レガ批評ニ尤モ多ク力ヲ盡クシテ居ル。併シ余ガ先生ノ名著「模倣ノ法則」ヲ始メテ學ンダ際ニ於テモ、尤モ多ク興味ヲ感ンジタノハ、其處ニハ先生ノアマリ論ンジテハ居ラナイ發明論ノ方面デアツタ。而シテ先生モ晩年ノ著作ニ至ルホド、模倣ノ方面ヨリモ寧ロ發明ノ方面ヲ重要視サレテ居ツテ、先生ノ社會學ノ眞髓ハ模倣ノ方面ヨリハ寧ロ發明ノ方面ニアルコトガ、段々明白ニナツテ居ルト信ンズルノデアル。

却說余ハ以上たゝるど先生ノ經濟心理學ニ就テ下セル概評ニヨリテ、現代經濟學上ニ於クルたゝるど先生ノ說ノ地位及ビ意義ヲ大體上明ラカニシタト信ンズルガ、併シ先生ノ「經濟心理學」ハ、經濟心理學ヲ組織的ニ論究セント試ミタル最初ノ著作デアリ、又今日ニ於テモ尙ホ唯一ノ著作デアルニ係ラズ、決シテ完成セルモノデナイ。先生ノ論究シテ居ラナイ經濟學上ノ問題モ少ナクナク、又其ノ論究シテ居ル問題ニ就テモ、箇人心理學の研究ノ方面ガ甚ダ不充分デアルノミナラ

(1) 拙稿、たゝるどトべるぐそん、藝文明治四十五年五月號、

ズ、其ノ尤モ力ヲ盡クサレタ社會心理學的研究ノ方面ニ於テモ、尙ホ不完全ナル處ガ多イ。其ノ方面ニ於テモ先生ハ研究ヲ完成サレタト云フヨリモ、寧ロホンノ着手サレタゲデ、其ノ完成ヲ後進ノ學者ノ手ニ殘サレタト云フ可キデアル。サキニ屢々引用セルまゑ氏ノ論文中ニ同氏ハ先生ノ「經濟心理學」ヲ閱讀シテ受ケタ一般的印象トシテ下ノ如ク云ハレテ居ルガ、余モ同感デアリ、恐クハ同書ヲ同情的ニ閱讀セル人々ハ誰モ同感スルデアラウト思フ。「本書ノ與フル一般的印象ハ壯大ニシテ調和的ナル森林ノ與フル夫レデアル。其ハ宏大ナル通路、巧妙ニ排置サレタル廣大無邊ナル配景ヲ有シ、或處ニハ鬱蒼タル大樹ノ偉觀ヲ呈シ、屢々喜悅ト驚駭トヲ與ヘ、世ニモ稀レナル種々ナル幽香ハ處々ニ薰ジ、其處此處ニ小園ガアレバ、又空地モアル、併シ將來ノ建設ニ對シテ無數ノ好材料ヲ呈供シテ居ル」。要スルニたゞるゝ先生ノ「經濟心理學」ハ將來完成セラル可キ經濟心理學ノ一ノ雛形ヲ示シ、而シテ其ノ内部ニハ富豐ナル經濟心理學的金鑛ヲ含藏スルモノデアル。サレバ其雛形ニ改造ヲ加ヘ、其金鑛ヲ採掘シ、精練シテ、以テ經濟心理學ヲ大成スルハ余輩後進者ノ任務デアル。(完結)